

サステナビリティチャート

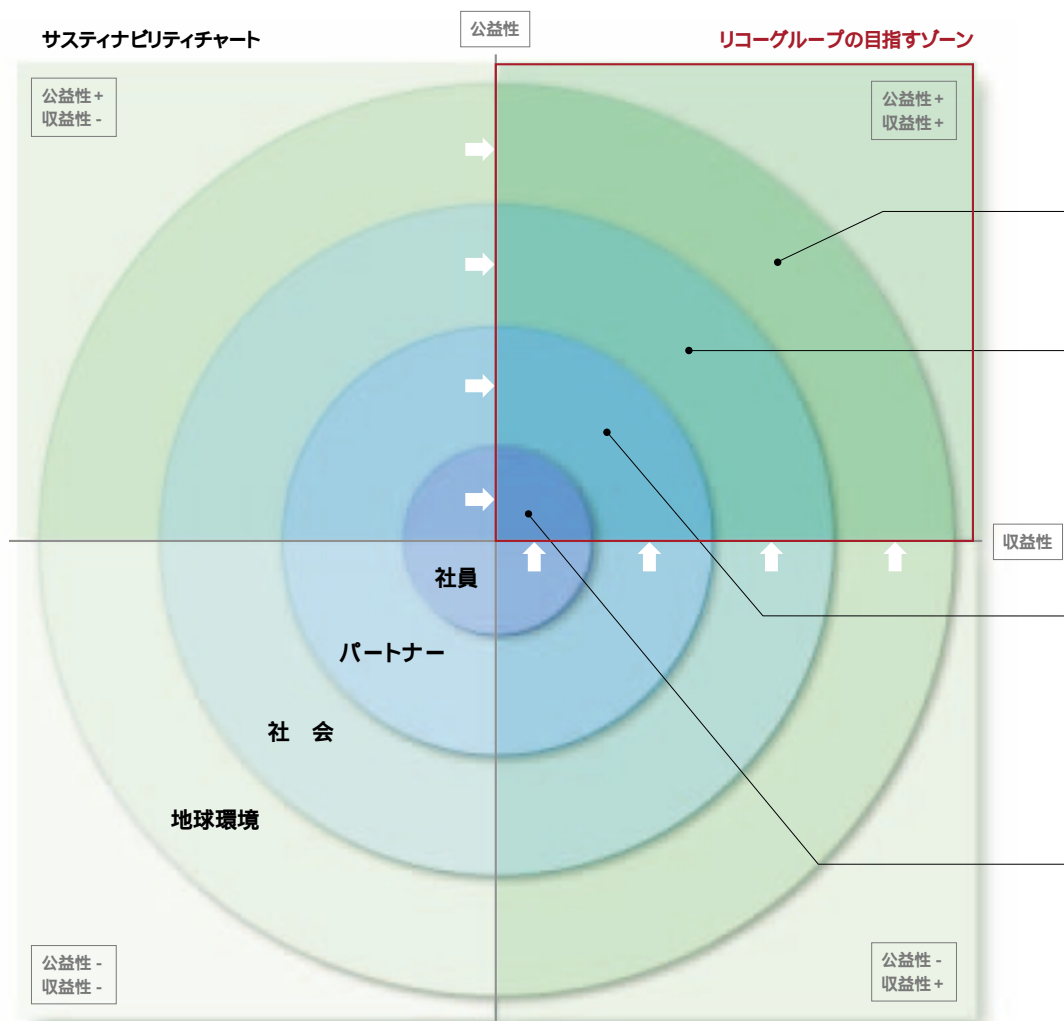
リコーグループは、
環境経営を実現することによって
持続可能な社会づくりに貢献します。

サステナビリティチャートの目的

持続可能な社会づくりのために、企業が果たすべき役割について、世界中でさまざまな議論がなされています。私たちは、リコーグループ全体の活動が、サステナビリティ(持続可能性)の高いものであるかどうかを把握し、活動の方向性や結果を体系的に情報開示することを目的に、サステナビリティチャートに表現しました。このチャートでは、「地

球環境」「社会」「パートナー」「社員」の4つステークホルダーを想定しています。さらに、社会的責任のある活動を通じてリコーグループ自身の利益が創出できているかをチェックするために、公益性(縦軸)および収益性(横軸)の2つの軸^{*}を設定しました。

^{*} これらの軸は、活動がどのゾーンに位置付けられるかを示すためのもので、金額や貢献度の大きさを表すものではありません。



地球環境の位置付けと「環境経営」

地球環境は、人間社会すべての基盤となるものです。そのためこのチャートでは、地球環境をいちばん外側の、すべてを包含する場所に位置付けています。リコーグループは、環境保全のための使命感に基づき、これを経済的利益のある方法で達成していく「環境経営」の実現を目指してきました。「環境経営」は、右上のゾーンに位置付けられます。たとえば、使いやすい省エネ性能や両面コピー性能*など、環境性能に優れた製品を開発・販売することは、社会全体の環境負荷の削減に貢献するだけでなく(公益性)、リコーグループに経済メリットをもたらす(収益性)、サステナビリティの高い活動だからです。

* 38、39ページを参照。

ステークホルダー 1 地球環境 33ページ

リコーグループが直接行う地球環境保全
環境技術開発による社会全体の環境負荷の削減(環境経営)
事業活動の環境負荷削減とコスト削減(環境経営)
汚染予防の推進(環境保全)

ステークホルダー 2 社会 63ページ

事業や貢献活動を行う国・地域、行政、NPO、格付・評価機関

社会への働きかけを通じた地球環境保全
環境教育の支援
森林生態系保全活動の支援
行政・NPO・地域とのパートナーシップ
環境コミュニケーション

ステークホルダー 3 パートナー 72ページ

仕入先様、お客様、株主様、リサイクル事業者様

事業に関連する方々への働きかけを通じた地球環境保全
仕入先様の環境経営実現のサポート
リサイクル事業者様とのパートナーシップ
物流会社様とのパートナーシップ

ステークホルダー 4 社員 73ページ

社員への働きかけを通じた地球環境保全
社員の環境教育・啓発
安全衛生

社会、パートナー、社員の位置付け

環境という大前提の上に人間社会が成立し、社会の中でビジネスが遂行され、パートナーとの関係の中で環境経営が推進されます。環境経営は、公益性・収益性の高い活動であり、それが誰かの不幸の上に成立するものではありません。かつての企業活動には「公益性が低く収益性が高い」右下のゾーンに位置する活動も少なくありませんでした。しかし、右下のゾーンの活動が不祥事として社会に知れ渡ると、「公益性も収益性も低い」左下のゾーンへと速やかに移動し、企業価値が著しく低下することが明らかになってきています。これは、収益を生み出す「過程」が重視され始めたことを示しています。

活動の効果を測定するツール

それぞれの活動が、公益性・収益性を高いレベルで創出できていることを裏付け、的確な経営判断を行うには、そのためのツールが必要です。リコーグループでは、環境保全活動の効果を予測・把握するために「環境会計*」の確立に取り組んでいます。

* 29ページを参照。

リコーグループの目指す方向

私たちリコーグループは、地球市民の一員であるという認識のもと、「環境経営」の実現に向けて、先駆的な取り組みを行ってきました。すべての活動が、公益性・収益性ともに高い右上のゾーンに存在することが理想ですが、使命感や社会からの要請によって、左上ゾーンの活動が必要になることもあります。私たちは、「企業は社会に貢献する立場にある」という認識のもと、環境社会貢献にも注力してきました。また、コミュニケーションを通じて、社会の価値観と協調した動きをとりながら、全体として右上ゾーンに存在する、サステナビリティの高い企業を目指していきます。